

# G7倉敷教育相会合に寄せて

国際医療ボランティアのAMDAGループが活動コンセプトとする「オープン相互扶助」とは、どんな考え方か。

民族や宗教、文化を超えて「困った時はお互いさま」の精神を普及させることだ。尊敬と信頼を育み、多様性を認め合うことが世界平和への第一歩。ロシアや中国も大地震の際はこの理念を理解し、私たちの支援を受け入れてくれた。究極の平和教育といえる。

「教育におけるイノベーション（技術革新）」をテーマとする倉敷教育相会合に期待することは。

イノベーションにはモチベーション（動機付け）

## 1 AMDAGループ代表 菅波茂氏(69)



# 相互扶助 若者に定着を

が不可欠。教育はハウ（方法論）を教える前に、ホ

ワイ（理由）を追求すべきだ。世界平和を目的とすれば、あるべき教育の姿はおのずと見えてくるはず。相互扶助の考えを若い人に根付かせてもら

復興に携わる。発展途上

を手に掛けた。

いたい。そのためにも、参加閣僚同士がコミュニケーションを深めることが重要だ。

AMDAGは被災・紛

争地で緊急医療活動を展開する一方、教育や保健福祉のプログラムに力を

入れた。

国などでの教育プログラムはその一環。健康的な生活に阻む貧困と無知を解消するのは教育しか

ない。妊産婦の死亡率が高い中米ホンジュラスで健診普及を図ったり、ネパールで農業技術の研修を行ったりと、約65カ国で

160以上のプログラム

県内でも大学と連携協定を結ぶなど、地域社会や国際社会に貢献できる人材育成のための教育も、教育の一環か。

岡山経済同友会の主催で11年から毎年、東日本大震災に遭った岩手県や宮城県へ学生らを派遣し、熊本地

震でも運営する避難所で清掃などに当たってもらった。数日間の活動だが、学生はたくましく成長する。

知識はインターネットから得られても、社会で生きる知恵は現場にしかない。経験は今後の災害でも生きる

きる立場にある。実践として、次代を担う若者に対し、生きる力を養う教育の場を提供する責務がある。11年には「おかやま国際塾」を発足させ、モンゴルやベトナムでの研修を通じ、5年間で計20人の大学生に国際貢献活動への理解と実践力を身に付けてもらった。

すがなみ・しげる 福山市(旧神辺町)出身。1977年、岡山大学院医学研究科修了。岡山大病院勤務など経て、84年に岡山市を本部とするAMDAGを設立。現在はアジアを中心に31カ国・地域に海外支部を置く。

主要国首脳会議(伊勢志摩サミット)に関連して倉敷市で開かれる先進7カ国(G7)の教育相会合は、14、15日に迫った。どんな成果が期待され、今後にとらるか。県内外の5人に聞いた。